

## ラテンアメリカ諸国におけるドル化の進展

一橋大学大学院 川崎健太郎

東京経済大学 熊本 方雄

自国の経済取引における支払手段として、外国通貨が用いられる現象は、通貨代替(currency substitution)と呼ばれ、特に外国通貨として、米国ドルが用いられる場合、ドル化(dollarization)と呼ばれる。この通貨代替、および、ドル化は、エマージング・マーケット諸国や体制移行国で、よくみられる現象である。特に、ハイパーインフレを経験したラテンアメリカ諸国では、ドル化が進展しているといわれる。

メキシコにおけるドル化を分析した Ramirez-Rojas(1985)、Rogers(1992)においては、ペソ - ドル比率が、ペソの切り下げ期待やインフレ格差から、有意に負の影響を受けており、ドル化が進展していることが示されている。しかしながら、これらの分析では、どの程度まで、ドル化が進んでいるかを分析することはできない。Kareken and Wallace(1981)で示されたように、ドル化が進展するにつれ、為替レートの変動がより大きくなり、完全な通貨代替の下では、為替レートの非決定性の問題が生じることを考えるならば、どの程度までドル化が進展しているかを分析することが重要となる。よって、本研究では、Imrohoroglu(1994)に従い、GMM(一般化積率法)を用いて、通貨代替型 money-in-the-utility モデルにおける外国通貨に対するウェイトを直接的に推定することにより、メキシコを含むラテンアメリカ諸国におけるドル化の進展状況を実証分析する。

### 参考文献

- Imrohoroglu,S.(1994) “ GMM Estimates of Currency Substitution between the Canadian Dollar and the U.S.Dollar ” *Journal of Money,Credit and Banking*,26,792-807
- Kareken,J. and Wallace,N. (1981), “ On the Indeterminacy of Equilibrium Exchange Rates ” ,*Quarterly Journal of Economics* 96,207-222
- Ramirez-Rojas,C.L. (1985), “ Currency Substitution in Argentina,Mexico, and Uruguay ” ,*IMF Staff Papers* 32,629-667
- Rogers,J.H. (1992), “ The Currency Substitution Hypothesis and Relative Money Demand in Mexico and Canada ” ,*Journal of Money,Credit and Banking* 24,300-318